

なめがた大使 小林光恵さん 書きおろしエッセイ

五感でキャッチ！なめがた漫遊記 第28回

なめがた送迎物語

日曜日の遅い午後、玉造地区の某所信号が赤になり停車すると、反対車線（土浦方面）に停車した車中の二人の顔が見えた。運転席の五十代とおぼしき女性と、助手席に座る二十歳くらいの男性が言葉を交わして、クスリと笑っていた。

その一時間半後、私は土浦方面に車を向けていた。某所の赤信号で停車すると、反対車線に前出の女性が運転する車が止まっていた。助手席に座っていた男性の姿はなかった。△息子さんへのお土産を途中で買って持たせたりして、土浦駅あたりまで送ってきたのかな。息子さん、実家でゆっくり過ごしたのだろうか。昨夜帰ってきてとんぼ返りかもしれないな△などと思っていると、光の加減で彼女の表情がよく見えて、私は目を見張った。あまりにも寂しそうだったから。寂しさが顔全体からにじみ出て滴っているか

のようなだった。もしかして、よほどの辛い事情のある送り届けだったのだろうか。いや、たぶん違う。毎回、送った後はそうなるのだ、きっと。誰の目も気にしなくていい車の中だから、取り繕わなくていいだけのこと。

人は、送迎をする機会の多いタイプと、送迎をしてもらうことの多いタイプに分かれるのではないだろうか。私は後者のほう。帰省の際には長らく高浜駅まで送迎してもらった。そういえば、高浜駅のホームで上り電車を待つ

ていると、改札の向こうで母がハンカチを振っており、一抹の寂しさはあるものの△大げさな△だから△と笑いたくなり、心の中で小さく吹き出し、電車に乗り込んでからは、小さい頃、夜のそばん塾の帰りに、母が懐中電灯を持って歩いて迎えにきてうれしかったことをなぜか思い出して、にんまりしたなんてこともあった。そんなだったからか、送った後の帰り道の両親の心境など想像したことがなかった。だから、くだんの運転席の女性の寂しさ全開の表情に驚いてしまったのかもしれない。

時代が変わり、行方市の皆さんは、昔よりも送迎の機会が増えていることと思います。子どもさんの通学や塾などなどの送迎や、お年寄りの病院の送迎などもあるでしょう。送迎の頻度が高くなった分、送迎にまつわるたくさんの物語があるのではないかしら。聞いてみたいですね。

小林 光恵さん



先日、徒歩(35分)で飲みに行き、帰りののんびり歩いて帰ろうとしたら、夜道は危ないかと車で送っていただいていた。

行方市出身。つくば市二の宮在住。贈る花束といえば生花が定番ですが、猛暑が続く昨今、バルーンの花束（バルーンブーケ）も人気だと聞き、検索してみると大人な感じのもあってすてきでした。機会があったら、誰かに贈りたいです。

市公式ホームページ内で「行方帰省メシ」連載中。
サイトはこちらから▶



地域おこし協力隊

連載コラム ②⑧

皆さんこんにちは。地域おこし協力隊の大橋です。

4月に農業振興センターで植えたジャガイモが大きく育ち、収穫の時期を迎えました。数日に分けて、市内の園児たちがジャガイモ掘りに訪れ、元気いっぱい収穫を楽しんでくれました。

畑では、葉っぱをかき分けながら土を掘っていくと、思っていたよりも深い場所からジャガイモが顔を出します。園児たちは「まだある!」「見つけた!」と夢中になって掘り進めますが、深く埋まっているものを掘るのは少し力が必要です。そんな場面では、大人がそっとお手伝いしながら、一緒に収穫を楽しみました。

当日は天候にも恵まれ、青空の下で笑顔いっぱい時間となりました。土の中から次々とジャガイモが出てくるたびに歓声が上がリ、一生懸命収穫する子どもたちの姿がとても印象的でした。

4月に「ちゃんと育ってくれるといいな」と思いながら植えたジャガイ



▲大橋 桂子 隊員

【令和7年4月1日～現職】
観光資源の再発見や開発、市の魅力の情報発信、特産品の販売や地域資源を生かしたまちづくりに取り組んでいます。

モが、こうして子どもたちの笑顔につながり、とてもうれしく感じます。
収穫を楽しむ園児たちの姿を見て、私たちまで元気をもらえた一日でした。

（次号はダシカ隊員が担当します。）

